

日本のスマートシティ政策の課題と解決策

：デンマークのスマートシティ政策と比較して

丹野純太

本論を取り上げたきっかけは、人びとの生活を幸福にする ICT 技術に関して関心があり、豊泉先生から、「世界一幸せな国」で「世界一 IT の進んだ国」と言われているデンマークの ICT 教育、ICT 活用に注目するよう勧められたからである。

日本とデンマークは、ICT 技術や AI の進歩が着実に進んでいることが共通している。日本では、スマートシティ政策により、Society 5.0 の実現を目指しているが、デンマークとのデジタル政府ランキングの順位は大きく離れている。そこで、両国の政策に目を向け、政府が行っているスマートシティ政策や、スマートシティ政策において大きく関わる ICT に関する教育の現状の調査を行った。その上で、両国の特徴を比較し、日本のスマートシティ政策においてデンマークの政策を反映すべき点の考察を行った。

本論では、両国のスマートシティ政策の特徴である地域住民の参加の有無について着目した。日本では、市民参加に拘らず、事業の推進者や参画者が一般社団法人や民間企業であり、デンマークでは、市民が中心となってスマートシティ政策を進めていることが分かった。

日本の ICT 教育の実態とデンマークの実態を比較し、教師の ICT に関するスキル不足や、生徒たちの教育における ICT 技術の使い方に違いがあることを指摘した。この違いが、国民がデジタル社会に適応するかどうかに影響していると考えた。

このような違いがある上で、教師の ICT 技術の向上を望むことが出来る基盤を整えることが、日本がデンマークを反映すべき点として重要であるという結論に至った。

スマートシティ政策を行い、誰もが暮らしやすい社会を作る上で、デジタル社会に適応できる国民を増やすことは大きな意義がある。デンマークの優れている部分もとい入れつつ、デンマークにはない日本ならではの視点で、全ての国民が住み続けたいと思うことが出来るスマートシティ政策が増えていくことを期待したい。